

不動テトラの安全衛生重点施策



2026年4月

株式会社不動テトラ
安全品質環境本部

目 次

1. 新しい事業年度のスタートにあたって	・・・ 1
2. 2026年度 安全衛生管理計画	・・・ 2
3. 2026年度 危険有害要因の特定等の結果表	・・・ 3
4. 『協働作業は合図の確認 しない・させない不安全行動 みんなで声かけ 防ごう類似災害』運動	・・・ 9
5. 適切な人員配置（作業指揮者等）と役割の完全実施	・・・ 10
6. 若手職員に対する適切な安全指導の実施	・・・ 12
7. 災害事故データベースの活用と作業手順書・KYへの 有効活用	・・・ 14

新しい事業年度(2026年度：81期)のスタートにあたって

新年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2025年の建設業における労働災害の発生状況は、前年に比べわずかに減少しましたが、近年は下げ止まりの状況にあります。当社の昨年度の災害発生件数は、休業災害・不休災害を合わせて12件(3月20日現在)でした。ここ数年と比較すると減少傾向(79期16件、78期20件)にあります。

しかしながら、安全目標として掲げた「度数率・強度率」は、期初の設定値を上回り、残念ながら目標達成には至りませんでした。引き続き、「**実効性のある安全衛生管理活動**」への取り組みが必要です。

当社における近年の労働災害発生状況等を踏まえ、今年度の安全衛生管理活動の基本となる『**2026年度安全衛生管理計画**』を策定しましたので伝達します。

ここ数年発生している災害を見ますと、ほとんどがヒューマンエラーによるものであり、「**協働作業中に合図の確認を徹底していなかったもの**」、あるいは、「**作業計画では定めていない作業員個人の不安全行動によるもの**」が大半を占めており、また、そのような行動を「**見逃し(見過ごし)た**」がために同じような災害が繰り返し発生しています。

その様な状況を踏まえ、今年度は『**協働作業は合図の確認 しない・させない不安全行動 みんなで声かけ 防ごう類似災害**』を最重点実施事項として活動していきます。災害の発生件数を減らすためには、作業に関わる全員が互いに『**声かけ**』を行い、ルールを遵守する風土を作ることが重要です。協働作業では「**声かけして合図の確認をする**」、また、不安全な状態や行動を見つけた際は「**声をあげる(見逃さない)**」など、一緒に働く仲間が『**みんなで声かけ**』することで、毎年繰り返し発生している『**類似災害**』をなくしていきましょう。類似災害を防ぐには、過去の災害事例を参考にして作業計画を立てることも効果的だと思いますので、80期にまとめた「**災害事故データベース**」を活用してください。

そのほか、「**3ない管理**」(黙認しない・妥協しない・放置しない)に徹した現場巡視、「**非定常作業**」が発生した際の作業開始までのルール厳守、「**三現主義**」(現場に足を運び・現物を確認し・現実を知る)の確実な実施、「**手・足・体の位置確認**」・「**指差呼称**」・「**見える化**」の安全活動推進など、慣れと油断から起こる災害の防止を目指すほか、若手社員の危険感受性の向上を目的とした「**体験型安全教育**」の実施、及び外国人労働者への「**適切な安全指導**」の実施を掲げています。

ここ数年果たせていない「**安全目標の達成**」を今年度こそ達成するよう、『**2026年度安全衛生管理計画**』を確実に実施して、「**無事故・無災害**」を目指していきましょう。

安全衛生管理計画ポスターを、本支店および各作業所・総合技術研究所・機械センター・営業所・事務所に配布します。掲示するとともに、計画された内容を、協力会社を含めた関係者全員に展開、趣旨徹底をお願いします。

株式会社 不 動 テ ト ラ
執行役員 安全品質環境本部長
荒木 俊 雄

2026年度 安全衛生管理計画



品質環境安全衛生方針

当社は、土木事業、地盤改良事業及びブロック環境事業の3事業を通じて、社会課題の解決に取り組めます。利害関係者とコミュニケーションを図り、事業環境と運用状況を的確に捉え、マネジメントシステムを継続的に改善し、使いやすい状態を維持します。

必要な資源を確保して、マネジメントシステムを確実に運用し、関係法令及びその他の要求事項を順守するとともに、社会課題を解決します。

社会課題の解決に向けた取り組み内容を、積極的に開示します。

安全衛生

人命尊重の理念のもとに「安全最優先」で事業活動を行い、リスク評価を徹底し、施策を確実に実行して、災害の絶滅と工事事故の防止、健康増進並びに職場環境の改善に努めます。

重点施策

重点施策	店社の重点実施事項	作業所の重点実施事項
労働安全衛生マネジメントシステムの適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> ● ISO45001の継続的な維持・管理と適切な運用 ● ISO45001審査指導事項等の水平展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全社の「危険有害要因の特定等の結果表」の作業所への反映(予想される災害・防止対策) ● リスクアセスメントの結果を反映した安全衛生目標・安全衛生管理計画・作業手順書の作成と周知
安全衛生活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 「協働作業は合図の確認しない・させない不安全行動 みんなで声かけ 防ごう類似災害」運動の推進 ● 実作業を考慮した作業手順・作業計画の策定への指導・支援とその確認 ● 現場条件を考慮した適切な人員配置の検討 ● 安全衛生委員会規則に則った安全衛生委員会の開催と活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「協働作業は合図の確認しない・させない不安全行動 みんなで声かけ 防ごう類似災害」運動の実施 ● 実作業に即した作業手順・作業計画の策定・周知と作業開始後の見直し ● 作業内容に即した適切な人員配置(作業指揮者等)とそれぞれの役割の完全実施 ● 外国人労働者に対する適切な安全指導の実施、若手職員に対する適切な安全指導の実施
三大災害の絶滅 (はさまれ・巻き込まれ災害、飛来・落下災害、墜落・転落災害)	<ul style="list-style-type: none"> ● より効果的なパトロール方法を検討し、他部門・他部署・若手との合同実施 ● 発生した災害(事故)の徹底した原因究明と、具体的な再発防止策の水平展開 ● 安全衛生パトロール是正指示事項・良好事項、監督署臨検指導事項の水平展開 ● 体験型安全教育・KYT(危険予知訓練)等による危険感受性向上施策の立案と支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3ない管理(黙認しない・妥協しない・放置しない)に徹した現場巡視 ● 災害事故データベースの活用と作業手順書・KYへの有効活用 ● 「非常時作業時の対応」・「三現主義」の確実な実施、「手・足・体の位置確認」・「指差呼称」・「声かけ」・「見える化」の安全活動推進 ● 体験型安全教育・KYT(危険予知訓練)等による危険感受性の向上
公衆災害・公衆事故・交通事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> ● NET審査会・施工計画審査委員会等で周辺状況や現場条件等の事前確認・情報の共有 ● 安全運転管理者の確実な選任と職務の遂行(運転者の運転前後のアルコールチェック他) ● 交通安全教育、長時間連続運転の禁止、疲労軽減への配慮、健康状態の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺状況や現場条件等の事前確認に基づいた適切な施工方法や施工機械の選定 ● 架空線位置の確認・明示と防護、地下埋設物位置の確認・明示と試掘の確実な実施 ● 通勤を含めた交通安全教育、運行ルートの明示およびヒヤリマップ作成と周知
「心とからだの健康づくり」および職場環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期健康診断の受診確認と有所見者への再診・再検指導 ● 特定保健指導利用の周知・参加促進による特定保健指導実施率の向上 ● 時間外・休日労働時間の削減、休日振替の促進、年次有給休暇等の取得促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期健康診断の確実な受診および有所見者の再診・再検 ● 特定保健指導の積極的な利用による特定保健指導実施率の向上 ● 時間外・休日労働時間の削減、休日振替の促進、年次有給休暇等の取得促進

安全目標

1. 死亡災害：0件
2. 公衆災害：0件
3. 度数率：1.35以内(統計内 休業4日以上)
強度率：0.10以内(統計内 休業4日以上)

衛生目標

1. 定期健康診断の受診率100%、二次検査受診率85%以上
2. 特定保健指導実施率30%以上
3. 過重労働(時間外・休日労働時間が1ヶ月あたり80時間超)の撲滅
医師による面接指導対象者への確実な面談実施
※面接指導対象者(時間外・休日労働時間が1ヶ月あたり80時間超)

年月	2026年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2027年 1月	2月	3月
月別重点項目	墜落・転落災害の防止	はさまれ・巻き込まれ災害の防止	飛来・落下災害の防止	建設機械・クレーン等災害の防止	感電等電気災害の防止	崩壊・倒壊災害の防止	激突され災害の防止	墜落・転落災害の防止	建設機械・クレーン等災害の防止	転倒災害の防止	はさまれ・巻き込まれ災害の防止	飛来・落下災害の防止
	交通事故・災害の防止	定期健康診断受診の徹底	熱中症の予防	ストレスチェックの実施	潜水災害の防止	交通事故・災害の防止	健康管理と職場環境の整備	架空線・地下埋設物事故の防止	休止期間中の保安対策の確立	切れ・こすれ災害の防止	船舶・作業船災害の防止	公衆災害の防止
主要行事予定	安全衛生管理計画の周知期間	全社安全大会	安全衛生推進大会	全国安全週間特別パトロール			全国労働衛生週間特別パトロール		年末年始労働災害防止強調期間特別パトロール	安全祈願		年度末労働災害防止強調週間



この表は、当社の過去の災害および事故事例をもとに要因を特定し、類似災害の防止を図るための結果表である
 下線部分は、2025年度に発生した災害および追加した項目である
 ※この結果表は集計表（本社作成）のリスク評価点が高い項目のみを抽出しています。現場の作業上のリスクについては集計表から必要な項目を抜粋して、作業所の「危険有害要因の特定等の結果表」を作成してください。

<陸上工事>

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
シールド	設備設置・撤去	軌道設備の設置	はさまれ・巻き込まれ	●レールを枕木上で横移動中、レールと枕木に手指を挟まれる	●レールの横移動はローラーバルコンを使用する作業手順にする ●レールや枕木を扱う人数を2人以上とし単独作業は行わない
	掘進	セグメント組立	はさまれ・巻き込まれ	●セグメント吊り金具とエレクトアーの間に手・指を挟まれる	●吊り金具の向き修正及びピン挿入時はエレクトアー操作を同時に行わない ●吊り金具の向き修正のための専用の力干棒を使用する
		セグメント搬送	はさまれ・巻き込まれ	●セグメントと枕木の間に足を挟まれる	●電動チェーンブロック操作時は荷から離れ、挟まれない位置で操作する ●スイッチの作動について、日常点検に追加する ●スイッチに不具合が生じた場合、使用しないよう周知する
トンネル	ボーリング工	ボーリング	はさまれ・巻き込まれ	●ケーシング引き抜き中、其上がりしたケーシングとロッドの縁がきれて突然ケーシングとロッドホルダーが落下し、ロッドホルダーの持ち手とボーリングマシンの足場の単管に手指が挟まれる	●作業手順書に正しいロッドホルダーの使用法を追記し周知する ●手順書がない作業が発生した際には、一旦作業を停止し、関係者と新たに手順を検討する
	発破・掘削	穿孔	飛来・落下	●削孔作業中、地山を確認するため切羽に近づき、吹付けコンクリートが落下する	●異常時には、作業を止めて職員へ連絡し指示を仰ぐ ●異常が発生したら、切羽には立ち入らない
		改管機の軸抜き	激突され	●軸を緩ませようとセットハンマーでおねじ部を叩いた際、フリー抜きが飛び指にぶつかる	●現地状況を確認のうえで、作業環境に即した作業手順書を検討・作成する ●使用する工具類に関する適切な使用方法を取扱説明書等により確認・周知する
		バルコン清掃	墜落・転落	●防護板を復旧しようと坑内ベルトコンベアのストレージカセット中段に上ったところ、足元の防護板が外れ転落する	●バルコン防護板には乗らず、ベルト横に簡易足場を用意して作業を行う ●ベルトコンベアを水洗いした際、特に冬季は一定時間空運転して水切りを行う
	吹付けコンクリート	モルタル吹付	飛来・落下	●モルタル吹付作業中、モルタルホースが破損しモルタルが供用線側へ飛散する	●摩耗しやすいホース接続箇所は日々点検し、点検結果に応じて早めに交換する ●万が一の破綻時に備え、ホース全体をサンダー等で覆う
		複型枠設置	飛来・落下	●型枠組立時、垂懸灯が落下して手に接触	●懸垂灯設置時は、接触や振動で外れないよう確実な落下防止（2カ所固定）を実施する ●充電式の簡易照明または、ヘッドライトを用いて照度を確保する ●手順書に照明設置時の落下防止固定方法の旨を追記し、実施する
	雑工	コンクリート打設	飛来・落下	●配管の下に敷いていたバタ角から配管がずれて、足に当たる ●覆工コンクリート打設中に圧送ホースが裂けて、パイプレタで締留めをしていた作業員の肩にホースが接触する	●レバーブロックでポンプ車と配管を固定する ●バタ角と配管を番線等で緊結し、ずれて配管が落ちないようにする ●打設前に圧送ホースをすべて点検し、劣化・損傷のあるものは交換する ●作業手順書に、圧送中の窓から締留めの必要が発生した場合、圧送を中断して締留めを行うよう追記し、周知・実施する
		重機足場造成	墜落・転落	●玉掛完了後、退避しようとボックスカルバートの天端に降りた際にバランスを崩し、カルバート天端から落下する	●墜落・転落で懸念される箇所では玉掛作業は行わない ●墜落又は落下等の危険がある場所での玉掛作業は、退避ルートや退避場所を決め、作業計画書に記載・周知する
		塩ビ管撤去	激突され	●抜けた塩ビ管を人力で撤去しようとバックホウのバケットを旋回したところ、塩ビ管がバケットに引っ掛かり外れて当たる	●塩ビ管撤去の詳細な作業手順を策定する
	河川	足場組立	足場組立	墜落・転落	●鋼製足場板を手持ちして運搬中、躯体の開口部から足を滑らせ、途中の防護ネットを破り最下段のコンクリート面に落下する
道路	躯体工	鉄筋運込	機械転倒	●ラフタークレーンブームを伸ばし作業半径確認中、アウトリガー一部の地盤が陥没し、クレーンが転倒する	●地中レーダー探査にて空洞があった場合、ボーリングにて空洞の確認後、空洞箇所を充填する ●アウトリガー設置箇所には鉄板を敷設する
		ケレン作業	切れ・こすれ	●カップブラシ先端のワイヤーが飛散し服の上から刺さる	●飛散したワイヤー片はほうき又は磁石で除去する ●カップブラシを使用して作業中、体が構造物と接触する作業があるときは作業前に粘着クリーナーで除去する
				●ディスクサンダーのコードが足場支柱に引っかかり、右手からディスクサンダーが抜け落ち左腕に接触する	●ディスクサンダーは両手で持って作業する ●ディスクサンダーのコードが長いときは、コードをクリップで固定する ●ケレン作業時はディスクサンダーはフルカバー式を使用し、切創防止手袋に加えてアームプロテクターを着用する
				●ディスクサンダーの刃がコンクリート面の凹凸に引っ掛かり、ディスクサンダーの刃が手にあたる	●全てのディスクサンダーにサイドハンドルを取り付けて使用する ●ケレン作業では全面保護カバータイプのディスクサンダーを使用する ●切創手袋、アームプロテクター着用を徹底する
	シート養生	墜落・転落	●柱コンクリートの養生シート飛散防止用ロープを縛る際、脚立ごと倒れる	●転倒のリスクが少ないベガスを使用可能な作業場所では使用する ●突発的な作業時は必ず非常作業KYを行い、安全な作業方法・安全な作業手順を確認し各作業員に周知してから作業を開始する ●1.2m程度の高さの作業であっても、作業を安易に考えず、作業前に一人KYを行い危険がないか考える習慣をつけるよう教育を行う	
基礎工	鋼管ソイルセメント杭	はさまれ・巻き込まれ	●無線でオペレーターに合図中、掴んでいたゴンドラと降下してくる鋼管回転装置との間に指をはさまれる	●ゴンドラ上での鋼管運込の作業手順を盛り込み、周知する ●施工機OPから見える位置に回転灯を設置し、ゴンドラが回転装置と接触するおそれがある位置にある時には回転灯が点灯し、退避した時には消灯する装置を設置する ●無線での合図と回転灯の消灯したことを確認してから、施工機OPは鋼管回転装置の昇降を行う	
用排水工	コンクリート二次製品切断	激突され	●コンクリート二次製品をエンジンカッターで切断中、エンジンカッターが跳ね上がり激突する	●切断に適した場所で、正しい姿勢でゆっくり作業する ●切断作業はエンジンカッター操作に熟練したものが行う	
ブロック積み作業	ブロック積み作業	切れ・こすれ	●ブロックの面加工をディスクグラインダーを使用して行う際、キックバックが発生し手を切る	●コンクリート面固定用の架台を作成し、切断対象物を手で保持しない状態で作業する ●ディスクグラインダーのキックバックについてのリスクを周知する ●ディスクグラインダー等の回転工具を使用する全作業において切創手袋を使用する	
雑工	資材片付け	架空線切断	●敷鉄板を撤去の際、バックホウブームをあげて移動していたため、架空線を切断する	●架空線に対するのぼり旗等の注意喚起明示を行う ●移動時に必ず誘導者を配置し、周辺確認・注意喚起を行う	
規制内移動	規制内移動	交通事故	●作業中に進入してきた一般車と走行中の工事車両が接触する	●規制内移動時は、路肩側を通行する ●朝礼時に一般車進入の危険性を周知する	
鉄道	基礎工	材料荷降し	飛来・落下	●鉄筋かごをトレーラーから荷降しするためチェーンブロックを3人で緩めていたところ、鉄筋かごが荷崩れを起こし下敷きになる	●鉄筋かごの積載は安定させるため最大3本積みとする ●荷降しは2人以上とし、キャンパーを設置 ●搬入時に注視者が荷姿・固縛状況を確認する(受注者の確認なしで荷下ろしは実施しない) ●荷下ろし順序として協力会社は固縛解除前に、玉掛けを実施するその後、作業指揮者の合図の元、運送業者が固縛を解除する
		盤下げ掘削	崩壊	●ハラスト止めのPC枕木が崩れ、ハラストが崩壊	●障害物などいつもと違う事象が発生した場合は、独断で判断せずに確認してから作業する ●ハラスト止め親杭を増し打ちする ●鋼矢板打設完了後鋼矢板とハラスト止めの間に突っ張りを入れて補強する ●鋼矢板の打ち止め高さを上げて、盛土の締まりを少なくする ●軌道に変位を及ぼす恐れがある作業は施工主と立会を依頼する
	躯体工	足場解体作業	墜落・転落	●枠組足場の大ばらし中に、無理に吊り上げたため部材の一部が破断・横振れし玉掛け者に当たり転落する	●枠組足場を大ばらしする場合は、2層5スパン以内とする ●親綱は、確実に安全帯が使用できるように設置する(親綱スパンは、5m程度以内とする) ●枠組足場の解体作業中は、必ず安全帯を使用する ●枠組足場は、原則として「手すり先行足場」を使用する

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
鉄道	躯体工	PC桁ブロック接合	墜落・転落	●桁天端上でレバブロックにてブロック接合時、バランスを崩して転落する	●安全帯使用責任者に声を掛け、監視のもと作業を行う ●張出し鉄筋上で作業を行う場合は桁接合部両側に足場を設置し、鉄筋上には足場板を設置する ●安全帯を掛ける単管手摺は抜けがないように設置する
		コンクリート打設	はさまれ・巻き込まれ	●ポンプ車移動・再設置の際、アウトリガーに足をはさむ	●ポンプ車据付け時はアウトリガー周囲の立入を禁止する ●ポンプ車運転者と職長(コンクリート打設工)は「据付け開始」「据付け完了」の合図確認を行い、各作業を開始する
	路盤工	材料確認	はさまれ・巻き込まれ	●鋼板を2人で抱えて仮据付する際、互いの息が合わず手指を鋼板とコンクリート面に挟まれる	●狭い場所で重物を扱う場合、キャンパー等を事前に設置し、設置間隙における指の空間を確保する ●仮据付の場合は外れることを予測し、ロープ等を鋼板下に通して持ち上げて設置する
	雑工	資材片付け	動作の反復、無理な動作	●現場内のトラフを人力にて移動する作業を、3人でローテーションしながら2人で行っていった所、腰を痛める	●資材の重量に合った人力運搬の方法・人数を手順書に明記し周知する ●腰部に負担がかからない持ち上げ方法を周知する
造成	準備工	伐採作業	激突され	●木をチェーンソーで切断した際、木が倒れると同時にツタで繋がっていた隣木が折れて激突される	●作業前にグループ(複数人)で現場状況を確認し、具体的な退避場所の選定を行う ●ツタが絡まり伐倒できない木は重機と人力を併用して作業を行う
		敷鉄板吊り込み作業	はさまれ・巻き込まれ	●吊金具の外れ止め装置が開まらなかったため、OPが吊荷を一旦吊下げ、玉掛者が吊金具を直すために手を出したところ、外れ止め金具が開まり指をはさむ	●吊具の始業前点検・使用前点検を確実に実施する ●必ずOPに合図をしてお互いに確認してから作業を行う ●ハンマーやボール等を使用して作業を行う
	切土・盛土	排水管敷設	崩壊・倒壊	●切土法面の法尻部で排水管の敷設作業中、切土法面の表層が崩落して生き埋めになる	●法定安全勾配で安定計算上、安全な勾配であっても周囲の作業環境を考慮し、できるだけゆるやかな勾配で掘削を行う ●勾配を測定し、記録する ●法尻部に立ち入り禁止措置を行う ●落石・崩壊の危険のある場合は、防護ネットを設置する
		2次製品据付	吊り込み作業	はさまれ・巻き込まれ	●H鋼を用いた自由勾配側溝専用の吊具の玉掛け時、吊り具の位置を調整しようとした際、側溝と吊り具の間に指を挟まれる
	雑工	切断作業	切れ・こすれ	●自由勾配側溝をコンクリート用エンジンカッターで切断時、カッターの刃が跳ねてあたる	●切断の際には下向きでの作業とし、2次製品を置き直し安定した姿勢で作業する ●刃を点検し、有資格者が刃の交換・点検を行う
		除雪	架空線損傷	●除雪及び走路整備の際、バックホウのブームを上げたまま旋回し支線を引っ掛け、支線元の電柱が折れて転倒する	●予定外作業が発生する場合は、作業前に職員及び作業関係者で作業方法・手順の確認を行い、現地KYを実施する ●架空線近傍に三角旗及び登り旗を設置して明示をする ●架空線近傍作業がある場合、作業前に架空線の位置を作業関係者に周知をし、作業場の確認を行う ●架空線のハザードマップを更新し、協力業者に周知を行う
上下水道	ボーリング工	ボーリング	ガス管損傷	●ボーリング調査中、ガス管に接触する	●固い物体にぶつかった際は一旦作業を中断し、原因を特定してから作業を再開する ●埋設物がある箇所付近の施工は、事前に試掘及び立会を行う ●事前にガス会社と埋設物の事前協議をする
		推進工	既設橋梁の取壊し作業	墜落・転落	●バックホウキャビンから降りて撤去箇所を確認しようとしたところ、足元がもつれキャビンから地面へ転落する
除染	構込・運搬	玉掛け	墜落・転落	●大型土のうに上がって玉掛作業を行う際に、足を滑らせ転倒する	●長い玉掛用具(ナイロンスリング)を使用して、大型土のうに上がらない
開削	夜間場内歩行	夜間場内歩行	墜落・転落	●SMW施工用溝掘削部へ転落する	●危険箇所に、注意喚起の看板及びカラーコーン点滅灯を設置する ●朝礼・KY時に立入禁止箇所を周知徹底する
	掘削	重機物人力運搬	はさまれ・巻き込まれ	●H鋼吊り金具を二人で反置する際、一方の作業員が踏み転倒した反動でもう一方の作業員が切梁とH鋼吊り金具の間に手を挟む	●人力での重機物運搬を禁止し、揚重機にて吊り作業を行う ●揚重機での吊り作業が困難な場合、チェーンブロック等で吊りながら作業を行う ●照明の数を増やして足元を明るくして指差し確認を徹底する ●水中ポンプを設置し水替えを行い、足元のぬかみ発生を低減する
地盤改良(圧密・締固め)	施工砂坑系	施工【リソイルCP】	バケット故障	●ショベルからの砂投入時、バケットがガイドから外れる	●打設中は近づかない ●ガイド部分の曲がり修正後にチャンネルを溶接、ボルトの受け側ステーをボルト位置以外の部分もアングルで作成し、一体型に変更する ●スキット削を動かす仕様バケットへ交換する
			砂飛散	●ホッパーへの砂供給時、バケットから砂がこぼれて周辺垂面に飛散する	●打設中は近づかない ●通常バケットへの交換又はリソイルバケットの吐出口を延長する
		トップシーブの修理	はさまれ・巻き込まれ	●トップシーブを修理する際、ワイヤーをつかんだ手を挟まれる	●非正常作業打合せの実施を徹底する ●コミュニケーション手段を再検討する
		主巻ワイヤー等取付け	連結ピン折損	●主巻ワイヤー・バッファー取付け中、ボトムブロック、ショックの連結ピンが折れる	●地盤が固く施工機の各所に負荷がかかっているため、随時点検を行う
		施工【SAVE】	砕石飛散	●ケーシングパイプ内に砕石がつまり、地表面上で管内の加圧をした際、砕石が飛散する	●管内の加圧をする際は、ケーシングパイプを地中へ確実に打込んでから行う ●加圧する際は、ゴム板製の飛散防止シートを設置する
			作業油飛散	●ドレーンホースのカブラーが外れ、昇降装置付近から作動油が飛散する	●ホース牽動により引っ張られて抜けないよう、ホースに遊びをもたせる ●作業開始前にホースジョイントの状態(カブラー劣化、ゆるみ等)を確認する
施工【SAVE-SP】	はさまれ・巻き込まれ	●ケーシングカップリングを保持するためチェックを締めたため、手を挟まれる	●ケーシング降着方法や合図などでオペレータは可動させないことを作業員全員に周知する ●作業手順書にケーシング降着方法を明記し、作業員全員に周知する		
施工砂坑系	施工【SAVE-SP】	はさまれ・巻き込まれ	●ケーシングを取り外す際、ケーシングロッドを持ったところが滑り、手指をロッド間に挟む	●滑り止め付きの手袋を使用する ●ロッドに流動化材が付着している場合、高圧洗浄機でよく洗い滑らないようにする ●ケーシングロッドの取り扱いには注意し、慎重に行う	
地盤改良(固化)	施工固化系	施工機移動	機械転倒	●施工機の移動中または施工時、施工機が転倒する	●支持地盤の安定検討を行う際の安全率を統一する(安全率=3.0) ●施工前および施工中、フルフローリングにより支持地盤の状況を確認する ●敷鉄板の敷設は井桁敷とし、上下の敷鉄板の端部を重ね合わせない
		施工【C1-CMC】	機械転倒	●買入後、引き抜きの際、シーブとオーガーの連結部が破断し、その反動でリーダーが大きく揺れる	●地中障害等機械に負荷がかかる場合、定期的に溶接部やボルト部の点検を実施する ●バックホウで掘れる深さまで地中障害物撤去をほくしを行ってから買入する
			飛来・落下	●買入中、攪拌翼の連結ピンのボルトが緩み、連結ピンが落下する	●施工開始前に目視による軸連結ピンの抜けがないか確認する ●毎日1セット目施工時、ジョイント部の抜け・ゆるみがないか、点検ハンマーを使用して確認する ●ボルト緩み防止剤を使用する
			機械転倒	●買入中、ホースハンガーが勝手に巻き上がって、踊り場が外れる	●SGX-880以降のベースマシンは異常症状が過去にもあるため注意する ●始業開始前点検を実施する
			飛来・落下	●施工中、操作していないのにバケツが下がってくる	●SGX-880以降のベースマシンは異常症状が過去にもあるため注意する ●始業開始前点検を実施する

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
地盤改良(固化)	施工固化系	施工【C I-C MC】	土砂の飛散	●打設中、民家に土砂が飛散する	●飛散防止シートを民家方向に拡張し、排泥の飛散を防止する ●監視員の合図で、貫入に合わせ巻き込みを防止しながら飛散防止シートを降下させる ●エアの噴出は、飛散防止シートで杭孔が隠れるまで行わない
			飛来・落下	●ロータリーミキシング施工機の移動に伴い材料ホースを準備中、近くを走行した相番のバックホウから泥がはねて目に入る	●重機走行場所の近傍に人がいる場合、無線機等で人払いしてから走行する ●作業員が立ち入って作業する際、カウコーン等で作業場所を区画してから作業を行う
		攪拌翼点検・交換	土塊の落下	●攪拌翼の一段目に登り、ピンを抜く際、振れ止め天板裏から残土が落下してあたり、攪拌翼から転落する	●振れ止め天板の下に入る時は、付着しているセメントがないか確認する ●天板に残土が付着がある場合は、天板を叩いて落とす ●攪拌翼に登らず、作業台を使用する
				●点検時、下部振れ止めの下に入り、振れ止め吊りワイヤーが切断・落下して、下敷きになる	●機械の下に立ち入る場合は、落下防止措置を確実に行う ●振れ止めの「落下防止ロック」の確認、「ワイヤーによる落下防止」措置を行う
			●攪拌翼取り外し時、ハンマーで攪拌翼の軸翼接合ピンを叩いた際、攪拌翼上部に付着していた土塊が手に落下する	●飛散防止枠下部に立入る際は土塊付着を確認し、付着がある場合は土塊除去完了まで飛散防止板下部は立入禁止とする ●飛散防止枠下部に立入る際の作業手順を周知徹底する	
		●攪拌翼点検時、飛散防止カバーに付着していた土砂の塊(セメント混じり)が落下する	●振れ止め直下に立ち入る前に固着物を取り除く ●清掃後の土塊取り残しの目視確認を2人以上で実施する ●振れ止め天板上にパイプレタを取り付け、固着物を取り除く		
		ホース交換	激突され	●コンプレッサーホースを外したところ内の残圧が抜け切れておらず、ホースがはねてホース先端のカムロック金具が眉間にあたる	●水抜き作業でエアを使用する場合は2人以上で行う ●水抜き作業の手順書を作成し、周知徹底する
	施工【PB】	土砂の飛散	●打設中、泥土が仮囲いを超えて第三者に飛散する	●適正な高さの仮囲いを設置する ●誘導員、監視員を配置して作業を実施する	
	施工噴射系	施工【FTJ】	飛来・落下	●貫入中、オーガーを下げようとして、コッタが巻き込まれワイヤーが切断し振れ止めが落下する	●組立完了時に、リミッターの動作を確認する (オーガー降下限界値でリミッタースイッチに当たらない場合、そのまま降下させない)
				●振れ止めで軸を押さえ、オーガーで掴み替えを行った際、軸が落下する	●作業手順を見直し、落下を防止する ●振れ止めチャック構造の改善を実施する(改善提案中) ●チャックの動作に異常がある際、「かんざし」を使用し、手動で掴み替え作業を行う
				●エンジンを始動し、攪拌翼のノズル取付作業の準備中、ロッドチャックが開放し、攪拌軸が落下する ●エンジン再始動してチャック後、杭芯セットのため走行中にモ開放し、攪拌翼が落下する	●作業開始前に施工機各所の点検を実施する
			セメント飛散	●ノズル詰まりを解消するため攪拌翼のエアキャップを外した時、ノズルブロックが外れ飛び出し飛散する	●詰まり解消作業時は人払いを徹底する ●本体側に圧力を表示できるデジタルメーターを取り付けて本体OP・手元作業員が確認できるようにする ●攪拌翼を整備する際は残圧確認を徹底する
激突され		●排泥ホースジョイント部が敷鉄板端部に引っ掛かり、修正しようとして持ち上げた際、排泥ホースがはねて膝に当たる	●ホースジョイント部に古タイヤを固定して敷鉄板端部に引っかからないよう対策を施す ●排泥ホースに異常を認めた場合は、共同作業者に声掛けしてサンドポンプを停止してから作業する		
(地盤)改良	施工ドレーン系	修理作業	動作の反動	●レバーブロックをカー杯押そうとした際、急に緩みバランスを崩しレバーブロックとワイヤーに衝突する	●レバーブロックの取扱い教育を徹底する
		材料交換	激突され	●ドレーン材のリールカバーが落下しそうになり咄嗟に手で掴もうとして、指がリールカバーにぶつかる	●無理のない体勢で作業ができる位置にリールカバー置場を設置する ●作業下の人払いを徹底する
(地盤)水改良	施工締切・還水	資材の移動	飛来・落下	●クローラークレーン吊り治具下に入り、玉掛けワイヤーを吊り治具から外そうとした際、吊り治具が落下する	●吊り荷の下には入らない ●吊り荷の周辺には立ち入り禁止措置(バリアード、標識等)を行う ●吊り治具を吊った状態で作業を終了させない ●クレーン作業時はフリーモードで操作をしないで、必ず自動モードで操作を行う ●現場巡視時には、基本ルール(吊り荷下への立入り禁止等)の指示内容の遵守状況を確認する
陸上地盤改良(共通)	ボーリング工	調査ボーリング	はさまれ・巻き込まれ	●ロッドを挿込んだままドライブハンマーを落としたため、ドライブハンマーとロッドの間に指を挟まれる	●標準準入試験時はドライブハンマー使用前にピンを外してから使用する ●お互い声を掛け合い、合図をして作業する
		先行削孔	飛来・落下	●排水ラインのメクラのカムロックが破損し、手元作業員に飛散する	●カムロックの耐圧以上になる場合、送水作業を中断し、圧力を開放する ●縁切りの送水作業時は人払いを徹底する
	プラント工	アジテーター清掃	はさまれ・巻き込まれ	●始業開始時の点検中、アジテーター内で清掃中、別の操作者がアジテーターを回転させ、アジテーターの攪拌翼に足を挟まれる	●アジテーター内に入る時はプラント操作者に報告し、以下の対策を行う ①インターロックを作動させ鍵を抜いて監視員が鍵を保管する ②監視員を配置する ●アジテーター内に入る時は上蓋を全て開放しアジテーター内が見えるようにする
		プラント洗い	釜湯水流出	●バックホウにて釜湯の拡充作業を行った際、釜湯の土手の一部が崩壊し、プラント洗いが流出する	●十分な量を確保できる釜湯を考慮しての事前ヤード計画をたてる ●十分に曝気及び固化した残土を使用して、釜湯の土手を造成する
	組立・解体共通	クレーン作業	はさまれ・巻き込まれ	●移動式バックホウで攪拌軸を玉掛中、セーフティーロックをかけないまま操作レバーに接触し、仮置した攪拌軸と吊り上がった攪拌軸に足を挟まれる	●ドアを開ける際はエンジンを停止してキーを抜き取り、または、セーフティーロックを確実に作動させる ●「無線機」を使用して合図誘導を行う ●長尺物の吊り作業時は移動式クレーンを使用する ●作業指揮者が現場を離れた際は作業を止める
			墜落・転落	●クレーン運転室から出ようとして足を滑らせ転落する	●建設機械の運転席からの昇降時、機械の向きを正面に直して、昇降設備を利用する
			はさまれ・巻き込まれ	●クレーンにて施工機からキャッチホークを取り外そうとした際、荷振れを起こし添えていた手を挟まれる	●経験不足な作業員を配置する際には、作業手順・作業の危険性を十分に指導する ●周知会にて吊り荷が下がることを考慮した持ち手の位置を指示し、作業中に「かもしれ運動」を積極的に行う
		はさまれ・巻き込まれ	●送水ポンプを玉掛けて取り外す際、ポンプと玉掛けワイヤーの間に手を挟まれる	●クレーンオペから見える位置でも、手合図と無線を併用し、合図者・クレーンオペが互いに合図の復唱を行う	
		ストローク計取付	墜落・転落	●伸縮ストローク計のワイヤー取付中、施工機キャンピ上の日よけ用合板に乗り、合板が破損し転落する	●日よけ用の合板に乗らない ●高所作業時には安全帯を使用する ●ワイヤー取付位置を適正な位置に下げる
		下部振れ止め取付	飛来・落下	●リーダー層下部及び下部振れ止めの取り付け作業中、下部振れ止めが落下し、臀部に激突する	●専用金具(落下防止金具)を使用する ●作業員同士が声を掛けあい、機械の下に体を入れないよう注意する
	リーダー傾倒	クレーンブーム折損	●100t・75tラフタークレーンを使用してリーダー傾倒作業中、リーダーを吊っていた100tラフタークレーンのブームが折損する	●合図者・主クレーンオペ(100t)・SAVE-CPオペ・作業指揮者は無線を使用し合図を確認しながら作業を進め、緊急時に各機械をすぐに停止ができる状態にする ●作業所長(もしくは代理者)は組立・解体作業のリーダー-起こし(降ろし)工程に必ず立ち会う ●組立・解体作業体制事前通知書にブーム長・作業経験等を追加し、店社で確認後その内容を作業員へ周知する	
	セメントサイロ設置	送電線短絡	●送電線下で、クレーンで荷を吊って移動しようとして旋回した時、ブームが送電線に接近して、短絡する	●作業前に、電力会社の立会いを行い、送電線高さおよび離隔高さを確認する ●送電線下での作業は、監視人を置き、作業を監視させる ●クレーンに攜行指示ロープ等を設置して、安全措置をする ●送電線下、危険標識を設置する	
本体キャットウォーク固定	はさまれ・巻き込まれ	●接続部を番線で仮締める際、番線が切れその反動でフレームとラチェットの間に指を挟む	●適正な大きさのラチェットと番線を使用する ●締め込み方向を考慮して、回転締める ●作業手順書に使用するラチェットや番線を記載する		

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
陸上地盤改良(共通)	組立・解体共通	本体キャタピラ組立	はさまれ・巻き込まれ	●施工機キャタピラのシリンダースパツッパッピンを入れる際、合図者との合図がうまくいかず、OPがシリンダースパツッパッピンを操作して手指を挟む	●作業者、合図者、オペレーターは合図確認方法を周知する。 ●二か所で並行して作業を行わない
	搬入・搬出	機材積込	墜落・転落	●トラック上で機材積込み時、物を両手に抱え、荷台の端を移動中に荷台から墜落する	●トラック上で物を抱えて、荷台上を移動しない ●物を移動する場合には、昇降設備(ライトステップ等)を利用する
		ダンプ運搬	ゲート破損	●ダンプアップしたままゲートを通過しようとして、ゲートを破損する	●指定時間以外の車両搬入を行わない ●ガードマン不在時は車両の出入を禁止する ●荷降し後、走行前に降車して周囲・上方を確認するよう教育を徹底する
		バックホウ搬出	架空線接触	●バックホウを搬出するため、施工ヤードから積込み場所へ移動中、架空線(200V)に接触する	●バックホウ移動時は、架空線の位置を作業前に確認し、アームは格納する
	その他整備・点検	変位測量	転倒	●変位計測中、泥濘化した部分避ける為、堤防法面に足をかけた際足元が滑り転倒する	●長靴等、身に付けているものに不備があれば交換する ●ぬかるんだ場所には足場板を設置するなどの整備をする
		人力移動	動作の反動	●仮置きした架台を人力で微調整した際、腰に激痛が走る	●人力運搬は、左右同人数(合計が偶数になるように)で動かす ●移動する場所の平坦性を確認する
		配線作業	はさまれ・巻き込まれ	●施工機本体上のトランスボックスの扉が強風で閉まり、指を挟む	●トランスボックス扉が風等で閉まらないよう、固定する設備を設置する
	冷却水残量確認	高温・低温物との接触	●施工機の冷却水残量を確認するため、リザーブタンク上部のキャップを開けて確認しようとした際、熱水が吹き出し手にかかる	●ラジエーターの取り扱いについて関係者に教育する ●水量点検作業は、始業前又は昼休憩後等で冷却水温度が低い時に行う	

<海上工事>					
大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
防波堤	防波堤下部工	鋼管矢板切断	爆発	●既設鋼管矢板切断時に発生する水素ガスを抜くため、水中溶断機で鋼管矢板に穴を開け作業中に水中爆発する	●鋼管矢板先端からコア抜きを行い、可燃性ガスを放出させる ●打合せがない作業は行わないやむを得ず作業をする場合は、自己判断せずに状況を確認の上、作業手順を見直し再度作業を行う旨周知徹底する
	ケーソン進水据付	蒸ブロック据付	墜落・転落	●縄梯子を使用してRCケーソン遊水部に降下する際、縄梯子の固定治具が外れ墜落する	●使用する仮設備(昇降設備)や、仮設等に加工材を使用する際は、安全性を確認してから使用する ●安全ブロックは昇降設備には直接設置せず、単独で機能する箇所に設置する
護岸	準備工	敷鉄板敷設	はさまれ・巻き込まれ	●敷鉄板をバックホウバケットの爪で浮かした状態にして、玉掛者が吊具を外すため手を出した時、鉄板が落下し吊具が倒れ、手指が敷鉄板と吊具の間に挟まれる	●挟まれ防止の角材使用を作業手順書に明記し改訂するその後周知徹底する ●敷鉄板、バックホウの動きが停まるまで合図者が制止し、角材等を挟んで吊具が挟まれないようにし、敷鉄板を降ろした後に玉外しする ●敷設時の再吊上げまで角材は存置する
	ボーリング工	海上ボーリング	台船大破	●設置していたセップ台船が時化により傾き、その後波により大破する	●セップ台船組立時に各部材の点検・確認を行う ●セップ台船退避基準(平均風速、有義波高)を適宜見直す
浚渫	浚渫工	コンクリート打設	水中コンクリート打設	●先端ホースをクレーンで吊って打設中、ホースが破裂して生コンが飛散する	●ポンプ車にて生コン打設の際は、保護メガネを着用する ●先端ホースは2点吊とし、ホースにつぶれや折れがないことを点検した後打設する ●先端ホース(5時)の外側に8時のサニーホースで養生し、破裂しても生コンが飛散しないようにする ●ポンプ車の日常点検に加え、ホース・配管も点検を行い、不備のある物は交換する
		クレーンエンジンのエアバルブ開閉	切れ・こすれ	●エンジンルーム内の歩廊を歩行中、足がもつれて転倒し、歩廊の鉄板を固定しているボルトの頭で切創する(資材が放置された歩廊が狭くなっていた)	●通路上に資材を放置しない(作業終了時に使った人が片付ける) ●決められた安全巡視を行う
(地盤改良)	オイルガードの締結と作業	船舶、機械の点検	はさまれ・巻き込まれ	●船が動揺した際、水平ローラーと操船ワイヤーの間に指を挟む	●操船ワイヤー停止時でも原則立入禁止、作業船の動揺によりアンカーワイヤーが動くことへの教育・周知を行う
(圧密地・盛締改良)	アンカー移動	吊荷作業	はさまれ・巻き込まれ	●アンカーを吊り上げ甲板上へ移動させた際、荷振れし手で押さえたため、手摺とアンカーに手を挟まれる	●吊上げ・吊降し時は、介錯ロープを使用し、吊荷に直接手を触れない ●波浪の影響が及ぼす危険性についての再確認をする
	曳航	曳航接舷作業	燃料漏れ	●曳船機移動の際、曳船と台船のアンカーが接触し、曳船の燃料タンクに穴が開く	●曳船から接舷する作業手順書を作成し、関係者に周知する ●曳船にて定位直まで引寄せ、砂貯蔵台船の側面から曳船により押しつけてガット台船に接舷させる ●曳船にて定位直まで戻す時のみロープを使用し、砂貯蔵台船の側面から曳船により押しつけてガット台船に接舷させる
	瀬取	材料積込み	墜落・転落	●ガット船で材料砂を台船へ積込み時、ブレーキをかけた反動で砂の塊が落下し、足が砂の塊とヒットに挟まれ落水する	●外国人労働者に危険な作業であることを図や言語を用いて教育する ●ガット船OPは旋回する前に砂運搬用台船を目標し、合図者を確認する
(地盤改良)	ベルト交換	クラウトポンプのベルト交換	はさまれ・巻き込まれ	●緩んだクラウトポンプのベルトを交換中、手を巻き込まれる	●修理作業開始前に、電源を落とす ●事前に無線機の感度を確認する ●ポンプ稼働時は、『無線連絡→復帰』の手順を踏む ●修理灯のモニターを設置し、常に確認する
海上地盤改良(共通工)	船舶係留	船舶係留	激突され	●係留作業中、ロープに無理な力が加わり切断又は解けて、乗組員がロープに跳ねられる	●着火船の曳船用ガイドに係留ロープが引っ掛からないような形状にする ●着火船の船首甲板部に立入禁止区域を明示する ●係留ロープ、補助ロープの始業前点検を確実に実施する ●バンドル(タイヤ)に係留ロープが絡まることのあるので、係留ロープの動きを監視する
			はさまれ・巻き込まれ	●引き船を起重機船に係留時、船体が動揺して係留ロープとヒットに手を挟む	●係留ロープを掛ける際、補助ロープの使用を徹底する
			激突され	●係留ロープの受渡し時、チャッカ船上の作業員がロープをつまもつたところ、ロープが落下して手に当たる	●受け渡しの合図を徹底する ●補助ロープを持って引き寄せる
			はさまれ・巻き込まれ	●船体とスパッドの隙間にキャンパーを設置する際、船舶の動揺で手指を挟む	●キャンパー外側に覆れる持ち手を加工し、設置面に指が入らない構造にする ●船舶の動揺を確認し、収まってから作業する
			船沈没	●台船付近に係留していた船が沈没する	●引船の台風回避はさらに安全性が高い場所へ退避する ●大きい波浪が想定される場合は、引船と作業船の機抱きを行わない ●可能な限り、小型船舶は陸上(起重機船)に揚げて回轉する
	積込・運搬	荷卸し	飛来・落下	●工具をロープで降ろした際、括っていた番線カッターが抜け落ち激突する	●蓋つき工具袋に入れて上げ下ろしを行う入らないものは、2箇所以上固縛する ●高所作業中の退避エリアを決め、明示し、立入禁止とする立ち入る際は無線連絡を行い、作業を一旦停止する
	乗船・下船	乗船	転倒	●ガットバージの防舷タイヤに足をのせ、曳船兼揚船船に乗り移ろうとした際、外舷で足を滑らせ脇腹を打つ ●SD船から揚船船へ移動する際、甲板上で滑り転倒する	●段差の小さい防舷材側(船舷側のバンドル)から曳船兼揚船船へ入り移る ●乗り移らず、係留ロープをガットバージのヒットへ設置し曳船兼揚船船側からハッカを使用してロープを取る若しくは、ガットバージ側に人を配置しロープを取ってもらう ●外舷が滑りやすい場合、滑り止め措置を行う ●交通船に係留しやすい位置に昇降設備を設置し、使用する ●昇降設備にゴムトラップを設置する ●滑り防止マットのある場所で乗降する ●防滑安全長靴を使用する
交通船	交通船の操船	船損傷	●正面から接近してきた貨物船の灯火・照明が市街地照明の中に埋没していたため確認出来ず、直進し続け衝突する	●船首に見張員を配置する ●見張員と船長は無線機を所持し、相互に連絡を取り合い、接近船舶の確認を行う ●赤外線カメラを設置し、レーダーと併用して、接近船舶の確認を行う ●航路横断は最短距離で往來船舶の動向とその有無を確認後、速やかに進行	
ガス溶接	アセチレンポンプの運搬	はさまれ・巻き込まれ	●アセチレンポンプを運搬し、ポンプを立掛けようとして、奥にあるポンプとの間に指を挟まれる	●ポンプを立掛ける時は、指の位置を確認する ●一人で無理がある時は、二人で行う ●ポンプとポンプの間に間仕切りを設ける	

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
(海上・地盤改良)	その他	分電盤の修理	感電	●発電機のブレーカーを落とさずに分電盤の点検・修理作業し、活線に接触し感電する	●故障が発生した場合は、電源を落とし作業を中止した後に行う ●点検・修理作業時には、電気検知機にて検測する ●分電盤には、行き先表示および注意喚起の表示をする
		燃料移送	油漏れ	●サービスタンクのエア抜きより油が漏れる	●エンジンを稼働している際は、持場から離れないことを周知・徹底する ●エア抜き周囲に防油堤を追加・設置する

<陸上・海上 共通工>

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)	
(陸上・海上 共通)	積込・運搬	ダンブ運搬	はさまれ・巻き込まれ	●落下したアオリを取り付ける際、バランスを崩して荷台とアオリに手をはさまれる	●業務内容、作業員の技量を把握した人員配置を行う ●アオリ下部のロックピンを取り付けする	
			はさまれ・巻き込まれ	●ダンブアオリを手で持ちあげヒンジを嵌める際、アオリが閉まり指を挟まれる	●外れ止めのストッパーが振動等で上がらないよう番線等で固定する ●日常点検時にストッパーが固定されているかチェックする ●予定外作業が発生した場合、非正常時のルールに従って非正常作業KYを行う	
			はさまれ・巻き込まれ	●ズリ下ろし後、アオリ部分に挟まっていた石を手で取り除いた際、アオリが下りてきて手指を挟まれる	●荷下ろし時、ズリが完全に落ち切ったことを確認する ●作業手順書に、アオリに石が挟まった際は再度ダンブアップして取り除くよう明記する	
			墜落・転落	●ダンブ荷台の泥土付着状況を確認しようと荷台に上った際、足を滑らせ落下する	●足を掛ける箇所に滑り止めシールを張り付ける ●運搬途中での荷台の確認は基本として行わない ●昇降時は、靴底の泥、雪等を取り除く	
			積荷落下	●ダンブ荷台から積荷のズリが落ち、後方の一般車に接触する	●土砂積込の際、荷台後部にこぼれ防止のポケットを設置する ●監視員はダンブ荷姿の確認(ポケットの形状等)を行う ●路面状況(大きな段差、窞、その他障害物)を示した資料を作成し、関係運転手への周知と日々のKYを徹底する	
			墜落・転落	●運行車両協議の後部取付が完了し、荷台上から昇降しようとした際、地面へ落下する	●手をかける前に指差呼称にて手で掴み、足を乗せる場所の確認を実施する ●監視員はダンブ車両協議取付時は、2人1組のペアで作業を行う ●ペアの一人は、荷台上がったメンバーのサポート(運行管理協議の受渡し等)に徹する	
	バックホウ作業	バックホウ作業	はさまれ・巻き込まれ	●バックホウ点検の際、ハンマーとレンチでボルトの増し締め作業中、レンチとハンマーの柄に指を挟まれる	●適正な工具を使用する ●非正常作業時は、作業方法、使用工具等を打ち合わせし、非正常作業KYを実施してから作業を行う	
			はさまれ・巻き込まれ	●バックホウバケットの先で敷鉄板を持ち上げた際、敷鉄板が落下し指を挟まれる	●バックホウを使用して吊り上げる際は、専用吊り具を使用する ●用途外使用禁止の指導・徹底する ●非正常作業における作業手順を周知する	
			機械滑落	●ストレンジャーバケットを装着した0.8m ³ 級バックホウが、伐採材集積用パイロット道路の先端からため池に転落する	●パイロット道路の幅は適切にとる ●手順を変更する場合は手順を確認しKYを実施する ●転圧が適切な状態であるか確認する ●重機の重心を崖側にかけない	
			架空線切断	●運転席上方を十分確認しないまま運転し、架空線を切断するまた、切断した架空線で感電する	●架空線下での作業は見張人を付け監視する ●架空線付近には注意喚起の表示を設置する	
	移動式クレーン作業	移動式クレーン作業	架空線切断	●ラフタークレーンで山留材搬入荷下ろし時、山留材が架空線に接触し、光ファイバケーブルを損傷する	●資材はクレーン作業ができる場所に置く ●合図者を専任して作業を行う ●合図者には笛を持たせ、危険時の合図を明確にする	
			送電線短絡	●送電線下で、クレーンで荷を吊って移動しようとした時、フームが送電線に接近して、短絡する	●作業前に、電力会社の立会いを行い、送電線高さおよび離隔距離を確認する ●送電線下での作業は、監視人を置き、作業を監視させる ●クレーンに操縦指示ロープ等を設置して、安全措置をする ●送電線下に、危険標識を設置する	
			飛来・落下	●結束バンドで固縛された鋼製型枠の束をユニック車で吊りあげた際、バンドが切断し滑り落ちる	●資材を吊り下ろす際は、立入禁止処置を実施する ●鋼製型枠の束を吊り上げる際は、レバブロック+ベルトスリングにて堅固に固縛する ●出荷時の荷を工夫する(1梱包の重量)	
	ユニック車	ユニック車	激突され	●ユニック車で鉄板端部にフックを掛けて上げたところ、フックがはずれ、地面と敷鉄板の間に腕を挟まれ、足を打撲する	●敷鉄板を放置する時は直置き禁止とし、ハタ角台木の上に置き、ハタ角は敷鉄板長手方向に2本設置する ●吊穴が使えない時の手順を追加し、作業員に周知徹底する	
			飛来・落下	●ユニック車で走行中、荷台から積荷の合板1枚が落下し、後続車の大型貨物車に接触する	●ワイヤー、ラッシングベルト等で固縛以外は、ネット養生・幌を掛ける等飛散防止を行う ●運搬車両退去前に誘導員による積荷固定状態の目視確認を行う ●安全教育で、運搬車両積荷の固定を周知し、朝礼・KY時に指導する	
			掘削	バックホウ作業	埋設物損傷	●バックホウで掘削中に埋設物(ケーブル・水道管等)を損傷させる ●埋設物の位置・高さを安易に判断せず、試掘を行う ●埋設物付近の掘削は手掘りで行う
	準備工	準備工	除草作業	蜂さされ	●仮置場にて草刈り作業中に蜂に刺される	●作業場所の蜂の巣等の有無の点検を行う ●朝礼時、蜂についての注意喚起を行い、蜂等がいるかもしれないと認識して作業を行う ●作業前、作業着に虫よけスプレーを噴霧する
			ガードフェンス補強	飛来・落下	●セットハンマーにて油圧ホースのカップラー先端部を叩いた所、ホース内の油が噴出し目に入った	●油圧ホースの使用前点検を実施し、不具合がないか確認する ●油圧ホースに圧がかかっている場合は使用を一時中断し、無理にハンマー等で叩かないよう徹底する
			丁張設置	動作の反復、無理な動作 切れ・こすれ	●セットハンマーで鉄筋を打込む作業を2人で実施時、手の甲を叩く ●コンパネ切断面のささくれを取り除く時にカッターナイフで左親指を切創した	●セットハンマー使用時は手甲ガードを支給し、使用する、 ●打ち込みは慎重に行う ●カッターナイフの刃先に指がない様子を保持 ●刃物を使用する作業では切創防止手袋を着用する ●ささくれ削りは刃物ではなく紙ヤスリを使用する
			重量物運搬	はさまれ・巻き込まれ	●重量物(半割プッシュ)を台車に乗せる際、手前に置いていた半割プッシュとの間に指先を挟まれる	●重量物は前方から並べ置き、手指を挟まれない置き方を周知する ●重量物を運搬する作業は、広い場所を準備する
	電動工具	電動工具	グラインダー仕上げ	飛来・落下	●パイプ材を溶接・グラインダー仕上げ時、鉄片が目飛散する	●研磨作業時はゴーグルタイプの密着性の高い保護メガネを着用する ●研磨作業時は送風機等の活用により作業者を風上に配置して作業する
			高圧洗浄機点検	飛来・落下	●高圧洗浄機の整備点検中、突然ノズルから水が噴出し目にあたる	●ノズル先端方向に人がいないことを確認してからレバーを握る ●整備・点検中においても保護メガネを着用する ●高圧洗浄機使用時の作業手順を再度、周知・徹底する
	高温環境下での作業	全ての作業	熱中症	熱中症	●高温環境下での作業中、熱中症にかかる(資材片付、敷鉄板移動、モルタル吹付、トラック積込、蛇かご製作、型枠解体、鉄筋組立、プラント組立、施工機組立解体、コンクリート打設、支保工組立、足場解体、誘導など)	●水分・塩分の適切な摂取と涼しく過度な休憩ができるような準備・設備を整える ●入場時に、既往症・異常所見の有無を健康診断結果等により確認し、有の場合は作業・配置等について配慮する ●体調に異常を感じたら、速やかに報告するよう指導する ●各作業員に熱中症対策を含め、自ら体調管理に努めることを徹底指導する
					場内歩行	場内歩行
場内歩行	場内歩行	場内歩行	切れ・こすれ	●右手に袋に入った釘を持ち、左手にかけやを持って歩行中にぬかるみで足を取られ、手を敷鉄板上についた際、釘が手のひらに刺さる	●丁張設置時は腰袋を使用し、歩行時は釘を手で持たない ●ぬかるみを歩く際には、足元を確認しながらゆっくり歩行する	
			激突	●ヘルメットを脱いで休憩所へ移動する際、通路上の水溜まりを避けようとして、頭上の室外機架台の角に頭部をぶつける	●水溜まりの排水を行い、砕石を敷いて整備する ●歩行時は周囲を確認する	

大工種	中工種	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のために実施すべき事項の特定(防止対策)
(陸 共上 通・ 工海 上)	緊急事態 (自然災害)	全ての作業	自然災害の被害が最大になる	●緊急事態(自然災害)の備えをしていないため、適切な対応がとれず被害が最大になる ※緊急事態の例(自然災害による災害・事故に結びつく可能性のある事象) ●台風・大雨・大雪・地震等により落盤・土砂崩壊・火災・爆発事故等による災害・事故が発生する	●考えられる緊急事態をリストアップする ●緊急事態時の連絡体制図および病院への搬入経路図を作成・掲示する ●緊急事態への対応手順を定め、周知する ●緊急事態に対応する手順を定期的に教育・訓練・テストし、記録する ●テスト後、又は緊急事態発生後、再評価し、記録する
	外国人		全ての災害・事故	●言語が理解できないため、作業指示や作業手順が伝わらず、災害・事故を起こす ●注意喚起看板等が外国語表記でないため読めず、危ない箇所に入り込む、機械と接触する、化学物質に触れる	●作業指示や作業手順はなるべくイラストを使うなど視覚効果があるものを利用する ●作業指示や作業手順を理解できているか確認する ●注意喚起看板等は外国語を併記する
	高齢者		全ての災害・事故	●身体機能が低下すること等により、転倒、腰痛、墜落・転落災害を起こす ※身体機能の低下の例 ●敏捷性や持久性、筋力や聴覚の低下、寒冷・暑熱環境への対応、基礎疾患の罹患状況(若年層に比べ労働災害の発生率が高く、休業も長期化しやすい)	●身体機能の低下を補う設備・装置の導入(主としてハード面の対策)を検討する ●高齢労働者の特性(敏捷性や持久性、筋力の低下等)を考慮した作業管理(主としてソフト面の対策)を検討する ●高齢者対象の教育では、作業内容とリスクについて理解させるため、写真や図、映像等の文字以外の情報も活用する

<その他の共通事項>

大項目	中項目	要素作業	事故の型	危険有害要因の特定(予想される災害)	危険有害要因の除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
安全	交通事故	業務中の移動	-	●運転時に交通事故を起こす(駐車場から発進時、交差点での右左折時、車線変更時の事故、自転車進入)	●適切な車間距離をとる ●交通ルールを遵守する ●左右・前方・後方をミラーだけでなく目視でよく確認して、発進、右左折する ●安全運転講習による指導を行う ●リース車における衝突防止装置を配備する
			-	●運転席の足元に転がったものを取ろうとした際、ハンドル操作を誤りガードレールに衝突する	●運転中に別のことをしない ●転がる可能性のあるものは転がらないように置く
			-	●前方車が停止したのに気づかず衝突する、ブレーキペダルが踏み前方車両に追突する	●前方確認 ●車間距離の確保
			-	●渋滞中に、後続車から追突される	●周囲の状況確認を行う
			-	●現場敷地内移動時、他工事車両に衝突される	●周囲の状況確認を行う
			-	●路面凍結で車が滑り、人や物に接触する	●冬道では走行速度を抑える「1割の速度減、2倍の車間距離、3分早めに出発」の励行 ●ハンドル操作やブレーキのかけ方、路面状況の把握方法を安全教育等で指導する ●「かもしれない」の意識を持ち、凍結箇所・雪道ではスリップすることを考慮し運転するよう周知徹底する
			-	●一般道・高速道路で他車両よりあおられて交通事故を起こし、怪我をする	●遭遇したら、相手にせず窓は開けず直ちに警察へ連絡する
	-	●長時間の運転で疲労し交通事故を起こし、怪我をする	●2時間運転したら、10分休憩をとる		
	-	●通勤時、車に接触する(横断歩道歩行時等)	●左右・前方をよく確認して横断する ●信号点滅時は、無理に渡らない ●時間に余裕をもって出掛け急がない		
	通勤時や業務中の怪我	通勤時や業務中の移動	-	●階段を踏み外し、転落する	●段差をよく確認する ●段差を踏み外さないような靴をはく
-			●階段を登る際、ふらついて転落する	●階段を使用する際は、手摺りを掴み昇降する ●可能な限りエレベーターを使用し、階段を使用する際はゆっくりと息を整えながら昇降する	
-			●傾斜のある歩道でバランスを崩して転倒する(体調不良だった)	●体調が悪いときは無理しない	
衛生	疾病	健康診断	-	●健康診断を受診せず、病気の発見が遅れる	●年1回の定期健康診断は必ず受診する
			-	●健康診断結果を放置して、病気が悪化する	●検診結果に従い、適切な対応を行う
			-	●特定業務従事者(深夜業)健康診断を受診せず、生活習慣病やガンになる	●年2回の特定業務従事者(深夜業)健康診断は必ず受診する
	感染症	-	●感染症に罹患する	●三密を避け、外出時・社内内ではマスクを着用する	
	メンタルヘルス	職場環境	-	●ストレスチェックを受検せず、疾患を見逃しメンタルを崩す	●ストレスチェックを受検し結果を確認して適切に対応する
-	●高ストレス者へのフォローがなく、メンタルが悪化する	●高ストレス者への職場環境改善を行う			

2026年度最重点実施事項として展開しています

協働作業は**合図の確認** しない・させない**不安全行動**
みんなで**声かけ** 防ごう**類似災害**

災害の発生件数を少しでも減らすためには、作業に関わる全員が互いに**声かけ**を行い、ルールを遵守する風土を作ることが重要です。

特に協働作業においては、自分勝手な判断による**不安全行動**が重大な災害につながります。

類似災害の再発を防ぐため、**合図の確認**と相互の**声かけ**を習慣化し、安全な作業手順を確立してください。

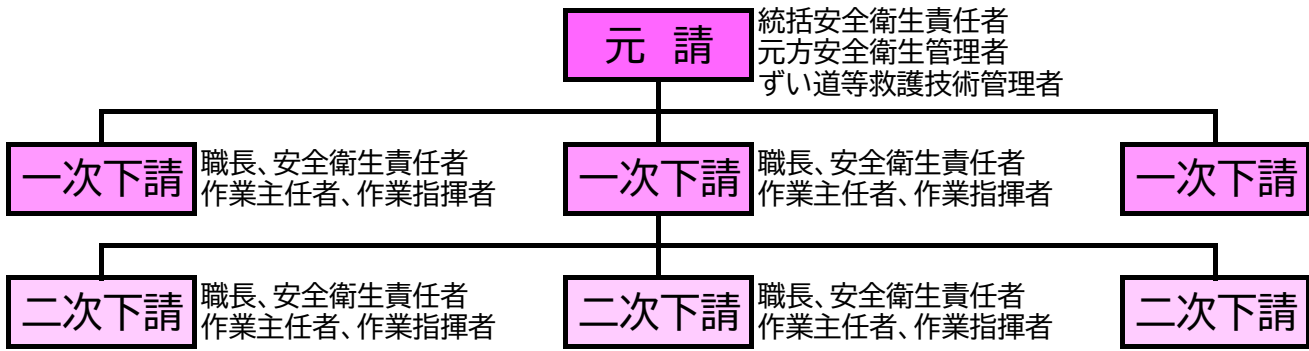
また、現場で不安全な状況や**災害**が発生した際には、**指導・改善を行う**とともに、後から現場に入ってくる作業員にもその内容を確実に伝えてください。

そのために、新規入場者向けの教育を充実させ、詰所への掲示などを通じて常に意識を高める工夫をしてください。

防ごう**類似災害**

- ①協働作業における「**合図**」のルールを明確にし、徹底する
- ②お互いに「**声かけ**」を行い、**不安全行動**を放置しない・させない
- ③水平展開された**災害事例**を共有し、再発防止対策を周知する
 - ・災害事例、注意喚起資料を詰所などへ**掲示**し、視覚的な啓発を強化する
 - ・現場で災害が発生した際には、**新規入場者向けの教育資料**に、災害報告書を追加する

適切な人員配置(作業指揮者等)と役割の完全実施



混在作業(作業所)			
常時作業する人数	20人	30人	50人
ずい道等、圧気、一定の橋梁		店社安全衛生管理者	統括安全衛生責任者
S造、SRC造の建物		店社安全衛生管理者	統括安全衛生責任者
その他の仕事			統括安全衛生責任者
事業者(店社)			
	10人	50人	100人
	安全衛生推進者		
		安全管理者、衛生管理者、産業医	
			総括安全衛生管理者

元方事業者	
統括安全衛生責任者	
① 元方安全衛生管理者等を指揮する ② 協議組織の設置及び運営を行う ③ 作業間の連絡及び調整を行う ④ 作業場所を巡視する ⑤ 関係請負人が行う労働者の安全又は衛生教育に対する指導及び援助を行う	⑥ 仕事の工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置に関する計画の作成とともに、関係請負人が作成する作業計画の指導を行う ⑦ クレーン等の合図、警報等を統一する ⑧ その他労働災害防止に必要な事項
元方安全衛生管理者	
・統括安全衛生責任者の職務のうち、「技術的事項」を管理する 「技術的事項」とは、上記①～⑧の安全又は衛生に関する具体的事項をいう	
店社安全衛生管理者	
① 作業所の統括安全衛生管理を担当するものに対して指導する ② 作業所を毎月1回以上巡視する ③ 作業所において行われる工事の進捗状況を把握する ④ 作業所の協議組織に随時参加する ⑤ 仕事の工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置に関する計画を確認する	

関係請負人

職長

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| ① 作業方法の決定及び労働者の配置 | ⑥ 作業方法の改善 |
| ② 作業の監督と指導 | ⑦ 危険性又は有害性等の調査の実施と結果に基づく措置 |
| ③ 作業設備及び作業場所の点検、保守管理 | ⑧ その他現場監督者として行うべき労働災害防止活動に関すること |
| ④ 異常時、災害発生時における措置 | |
| ⑤ 作業者の安全意識向上 | |

安全衛生責任者

- ① 統括安全衛生責任者との連絡
- ② 統括安全衛生責任者から連絡を受けた事項の関係者への連絡
- ③ 統括安全衛生責任者から連絡事項のうち、当該請負人に係るものの実施についての管理
- ④ 関係請負人がその労働者の作業の実施に関し作成する計画と、特定元方事業者が作成する計画との整合性を図るための統括安全衛生責任者との調整
- ⑤ 混在作業によって生じる労働災害に係る危険の有無の確認
- ⑥ 仕事の一部を再下請させる場合、後次請負人の安全衛生責任者との連絡調整

作業主任者

- ・ 型枠支保工の組立等
- ・ 足場の組立等
- ・ コンクリート造の工作物の解体等
- ・ 地山の掘削
- ・ 土留め支保工 ・はい
- ・ 酸素欠乏危険 ・高圧室内
- ・ 特定化学物質 ・有機溶剤
- ・ ガス溶接
- ・ ずい道等の掘削等・覆工 など

作業指揮者

- ・ クレーンの組立て等
- ・ 移動式クレーンの組立て等
- ・ 高所作業車(を用いる作業)
- ・ 車両系建設機械
(修理又はアタッチメントの装着及び取外し)
- ・ 杭打機、杭抜機、ボ-リング マシンの組立等
- ・ 貨物自動車の荷の積み卸し など

合図者

玉掛者

誘導員

監視人

など

《足場の組立等作業主任者の職務》

- ・ 材料、器具・工具・保護具類の点検及び不良品の取除き
- ・ 作業方法及び労働者の配置の決定、作業の進行状況の監視
- ・ 保護具類の使用状況の監視

《地山の掘削作業主任者の職務》

- ・ 作業方法の決定と作業の直接指揮
- ・ 器具・工具の点検と不良品の取除き
- ・ 保護具類の使用状況の監視

《車両系建設機械の修理作業指揮者の職務》

- ・ 作業手順を決定し、作業を指揮する
- ・ 車両系建設機械のブ-ム、ア-ム等の不意の降下防止のための安全支柱、安全ブ-ック等の使用状況を監視する

《杭打機等の組立等の作業指揮者の職務》

- ・ 作業の方法、作業の手順等を定め、これを労働者に周知し、作業を直接指揮する

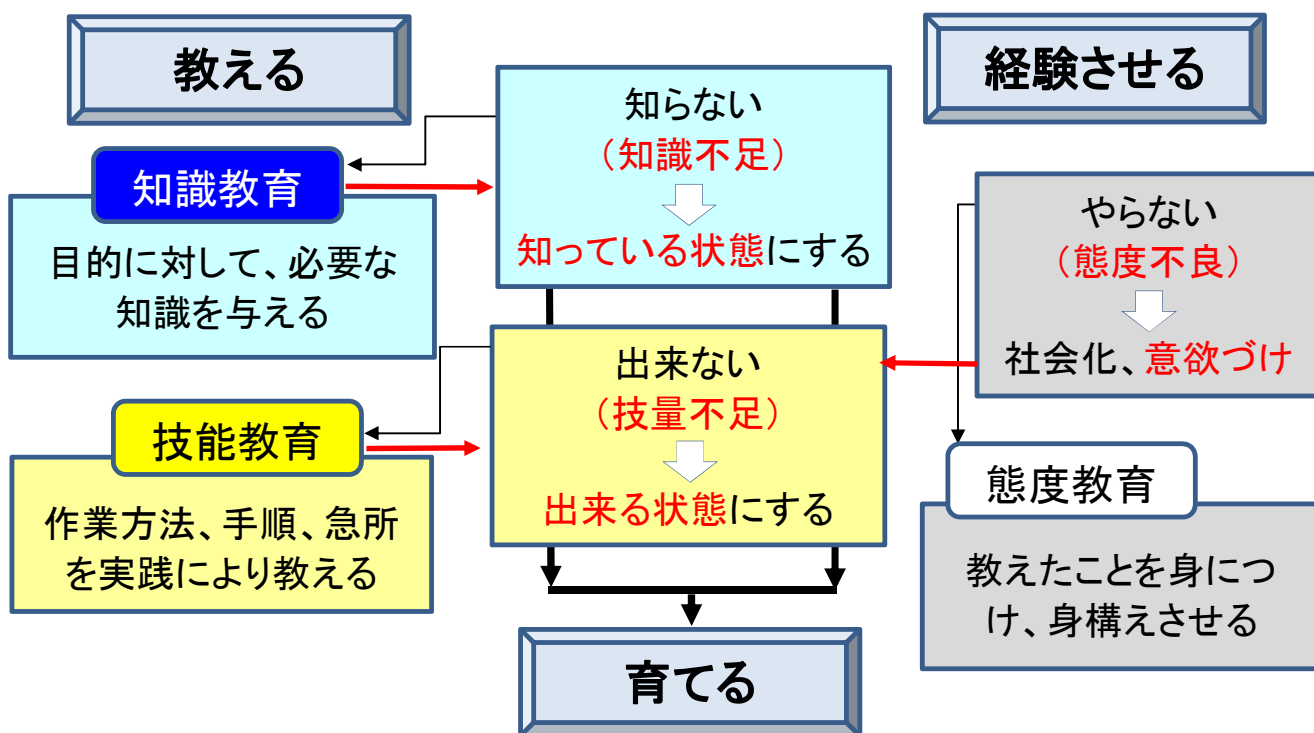
労働安全衛生法に基づき、作業内容に応じた適切な人員配置(作業指揮者等)を徹底し、各自がその職務を遂行して災害事故防止に努めましょう！！

若手職員に対する適切な安全指導の実施

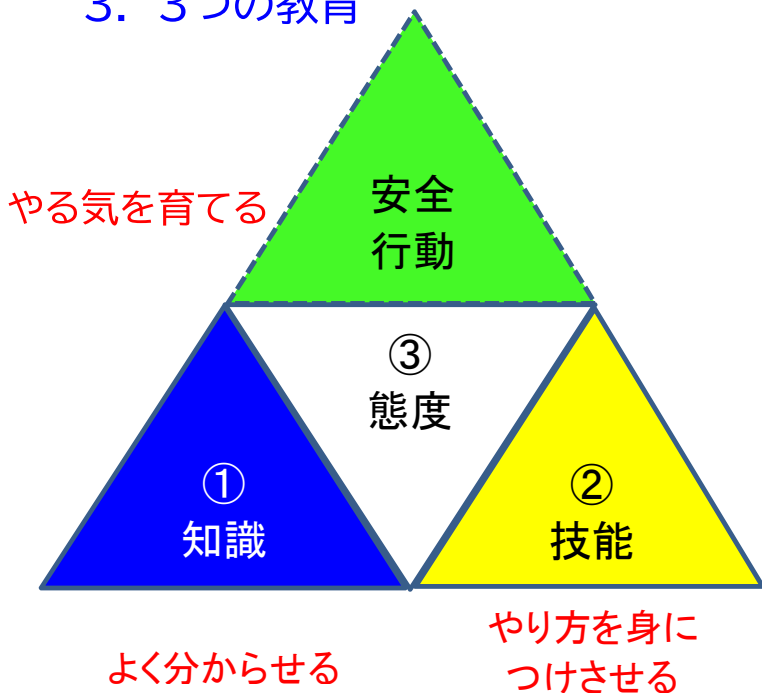
1. 若手職員への指導の重要性

- ① 若手職員は、現場の「安全の防波堤」(現場の最前線で安全管理を実施)
- ② 経験不足による「知識不足」「技能不足」
 - ・ **見えない**リスク(ベテランは過去の経験からリスクを察知できる)
 - ・ 予測(危険予知)の**限界**
 - ・ 作業方法・手順・危険のポイントが**わからない**

2. 指導および教育の目的



3. 3つの教育



①知識

- ・安全衛生関係法令、社内基準
- ・災害発生のメカニズム

(不安全な状態、不安全な行動)

②技能

- ・危険予知・発見技能(見る力)
- ・安全指導(伝える力)

③態度

- ・安全最優先の意識
- ・当事者意識と責任感

4. 指導および教育の8原則

考え方の原則

1. 相手を中心に

2. 自ら、やる気を起こさせるように

3. やさしいことから、難しいことへ

4. 一時に一事を

5. 反復して

6. 身近な事例に結びつけて

7. 体験させ、五感を活用して

8. 急所の理由を言って



教え方の原則

5. 仕事の教え方の4段階法

第一段階

習う準備をさせる

- 教育のねらいを明らかにして、動機づけをする
- 教育内容の重点を話す

第二段階

説明し、やって見せる

- 作業手順の主なステップを一つずつ言って、聞かせて、やって見せる
- 急所、ポイントを強調する

第三段階

やらせてみる

- 主なステップと急所を言わせる
- 間違いを直し、再度やらせる
- 良くできたらほめる
- わかったかを確認する

第四段階

教えた後を見る

- たびたび様子を見て調べる
- わからないことは質問するようにしむける
- 徐々に指導回数を減らす

若手職員は、現場の「安全の防波堤」です。経験不足を知識・技能・態度の修得で補い、不安全な状態や行動を現場から排除し、災害事故防止に努めましょう！！

災害事故データベースの活用と作業手順書・KYへの有効活用

1. 災害(事故)事例の確認方法

- ・ 全社の「危険有害要因の特定等の結果表」
- ・ 災害(事故)発生時に届く災害(事故)報告
- ・ ドキュマル(文書管理システム)に保存されている過去に発生した災害(事故)報告
- ・ **災害事故データベース(2007年度(62期)～2025年度(80期)の19年間)**

2. 災害事故データベースの保存場所

- ・ 不動テトライントラサイト/安全品質環境本部/安全部/報告書関係/災害事故データベース

3. 災害事故データベースの活用方法

- ① 工事名、部門、本支店、受注形態、工種、災害の型などで、**ソート**し自分の現場に関係する災害事故を探し出す
- ② 災害事故の**防止対策**を作業手順書・KYに**反映**させる
- ③ 自分の現場に関係する災害事故報告書を詰所などへ**掲示**し、視覚的な啓発を強化する

作業手順書									
工事名	作業内容	作成	年月日	訂正	年月日	職務	氏名	確認	職務
XXXXXXXX工事	XXXXXXXX								
作業内容		作業場所		作業時期		危険性		防止対策	
予想される災害		防止対策							

KY日報																																														
どこに・どんな危険があるか										リスクアセスメント			だから私たちはこうします																																	
予想される災害										防止対策																																				
今日の安全行動目標 (指差呼称 → ヨッ!!)																																														
<table border="1"> <tr> <th>健康状態</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th> </tr> <tr> <td>新規入場者</td> <td>良</td><td>可</td><td>良</td><td>可</td><td>良</td><td>可</td><td>良</td><td>可</td><td>良</td><td>可</td><td>良</td><td>可</td><td>良</td><td>可</td><td>良</td> </tr> </table>															健康状態	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	新規入場者	良	可	良	可	良	可	良	可	良	可	良	可	良	可	良
健康状態	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15																															
新規入場者	良	可	良	可	良	可	良	可	良	可	良	可	良	可	良																															
今日作業終了報告 本日の作業は終了しました。 帰路中に ・事故・災害などの有無：有・無 ・作業員の体調不良の有無：有・無 「有」場合の内容 () 職長・安全衛生責任者サイン ()																																														

過去に発生した自分の現場に関係する災害(事故)を確認し、作業手順書・KYに反映して防止対策を実践しましょう！！